

平成22年度 第1回あおもり教育フォーラム（三八地区）概要

1 日 時

平成22年8月21日（土） 10:00～12:00

2 会 場

三戸町ジョイワーク三戸

3 参 加 者

（1）一般参加者

新 藤 清 幸（小学校・PTA会長）
佐 藤 誉 保（小学校・PTA副会長）
遠 藤 広 之（中学校・PTA会長）
山 本 正 直（小中学校・PTA会長）
藤 村 立 夫（三戸町教育委員会推薦）
丹 新 也（高等学校・学校評議員）
西 塚 恵美子（特別支援学校・PTA会員）

（2）教員

原 寿（小学校・教員）
福 井 淳 悦（中学校・教員）
外 崎 隆 治（中学校・教員）
福 島 隆 雄（高等学校・教員）
梅 村 淳（高等学校・教員）
三 浦 亜 紀（特別支援学校・教員）

（3）教育委員会関係者

福 島 哲 男（県教育委員会教育委員）
橋 本 都（県教育委員会教育長）
友 田 博 文（三戸町教育委員会教育長）
山 田 勝 規（三八教育事務所所長）
三 笠 勝 彦（三八教育事務所次長）

4 概 要

●開会

●あいさつ〔福島県教育委員会委員〕

皆さん、おはようございます。青森県教育委員会の福島でございます。本日は、お忙しいところ御出席いただきまして、大変ありがとうございます。

さて、皆さん御存知のとおり、昨年の政権交代以来、国は教育改革の実施に当たり、今年度から高等学校授業料の実質無償化をスタートさせるとともに、教員の定数改善をはじめとする様々な改革に取り組むこととしております。

このような変革の時代にあって、私たちは、地方教育行政の担い手として、未来を担う子どもたちの教育と一人一人の生涯にわたる学びの充実に向けて、これまでも増して大きな期待が寄せられているものと考えております。

県教育委員会では、「青森県基本計画未来への挑戦」の「教育、人づくり分野」をもって、本県における教育振興基本計画と位置づけているところですが、この基本計画に基づき、今後とも引き続き教育施策の充実に向けて努めて参ります。特に、小中高の12年間を見通した学校教育を中心とし、幼児期から生涯にわたる学びをつないでいく「縦の連携」と、学校、家庭、地域の連携により社会全体で子どもたちを育むための「横の連携」を軸に、「確かな学力」の向上、「豊かな心」と「健やかな体」の育成に向け、様々な施策に取り組んでいるところです。

その際、具体的な教育施策の展開について、県民の皆様の御意見を伺いながら進める必要があることは申し上げるまでもありません。本フォーラムは、県民の皆様の生の声に直接触れ、県の教育施策に生かすために毎年開催しているものですが、今年度はここ三戸町、そして、来週は平内町と、2回開催いたします。

今年度のフォーラムのテーマは、先ほど申し上げました本県の教育振興基本計画に沿ったもので、

一つとして、「小学校から高校まで～学校教育の縦の連携について」

二つとして、「子どもたちの将来を見据えた教育について～私たちが今考えるべきこと」

三つとして、「豊かな心と健やかな体の育成～子どもたちの生活習慣と健康を考える」

とさせていただき、この中から各発表者の方にテーマを選び発表していただくことといたしました。皆様からの様々な御意見を賜りたいと思います。

本日は、三戸町の友田教育長さんもお見えでございます。

また、小・中・高校・特別支援学校の先生方、あるいは学校評議員や、保護者の方々、町の子どもたちを見守っていただいている方々がお集まりですので、校種や立場を越えて様々な御意見を交換していただくという、貴重な機会でございます。

2時間という限られた時間ではありますが、どうか、日頃、皆様方が教育について感じておられることについて、忌憚のない御意見をいただきますようよろしくお願い致します。

●施策説明〔事務局〕

●意見発表・意見交換

〔司会〕

それでは、これから意見発表・意見交換に入ります。本日意見発表してくださるのは、Aさん、Bさん、Cさん、Dさん、Eさんの5名であります。進め方についてですが、意見発表の後意見交換をしやすくするために前半と後半にわけ、前半に3名の方に意見発表していただき意見交換、その後求刑をはさみまして後半は残りの2名の方に意見発表していただき意見交換と進めてまいりたいと思います。意見発表の順番は、前半にAさん、Bさん、Cさん、後半にDさん、Eさんの順に行いたいと思います。お手元の資料の4ページ以降にあらかじめいただきました意見を要約した形で載せてありますのでそちらもご覧下さい。また、本日の話題に関連した内容につきまして、事務局等から聞きたいことがあれば遠慮なく質問していただければと思います。限られた時間ではありますが、本日の話題について、積極的にご意見を述べていただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、最初にAさんから意見発表をお願いいたします。発表は御着席のままでお願いいたします。

〔Aさん 小学校・PTA会長〕

「豊かな心と健やかな体の育成～子どもたちの生活習慣と健康を考える」というテーマについて発表します。

子どもたちの豊かな心を育むためには学校・家庭・地域の連携のもと大人が見守り、時には厳しく時には優しくといったけじめをはっきり付けることが必要かと考えます。私自身の子供の頃を思い出すと、しつけの面で一番怖かったのは祖父でした。祖父は戦争を体験していたこともあり、特に嘘をついたり反抗的な態度をとると、デレッキを持ち追いかけてきました。叩かれたという記憶はありませんが、悪いことに対しては厳しくしつけられた印象があります。逆に、普段はやさしく、日中忙しい両親に代わって二人で電車に乗って街へ連れて行ってくれたり、遊んでくれたりしました。また、祖父と父と私の親子三人、三世代でキャッチボールや川釣りなど遊んだりし、楽しかった思い出が残っております。現代の家庭環境に目を向けると、核家族化が進み親が留守の場合は家に子供だけということが少なくないのではないのでしょうか。親は飽きさせないためにテレビやビデオを見せておいたり、ゲームをさせたり、お菓子やジュースを与えたりし、発達段階において決して良いとは言えない環境に陥っていると思います。その習慣が生活習慣の乱れにつながりゲーム脳や肥満化になるといった可能性が高くなっているのではないかと思います。学校・家庭・地域の中で昔と状況が大きく変わったのは、核家族化が進んでしまった家族であり、その中のタテ社会が無くなってしまっているということで、核家族が悪いのではなく、祖父・祖母がいなくなっていることが問題になっていると考えています。

子どもが人格を形成する時期にケジメを付けなければならない場面に大人が居ない、子供だけという状況で、そのために思いやりや規範意識を解らせてあげるタイミングを逃しているのではないかと思います。家庭において欠けている祖父祖母を補うことができないかと考えた場合には、幸い三戸町には、地域にたくさ

んの方がいらっしゃいます。その方々と家庭が交流を深めれば子供たちの心の成長が期待できるのではないかと思います。実際私は町内会や子供会の育成部などに参加させてお手伝いさせてもらっていますが、各行事への子供の参加率の低下、そして保護者の参加率の低さが非常にまずいと感じております。人間関係作りのせっかくの場を、保護者自らが無くしている。これは、保護者引きこもり状態と言えます。

町にはいろいろな団体があり、その目的や組織は異なるが、核家族化によって失われた「子ども、親、祖父母」の三世代の代わりに、「疑似三世代」のような仕組みを構築できれば、子どもたちの人格形成に良いのではないかと考えています。

町には様々な行事がありますが、似たような行事として、学校の運動会と町民運動会、学校の文化祭と町民文化祭などがありますが、それらの行事を一元化し、子ども、親、お年寄りの三者が参加できる行事とし三者三様の心の育成を図ることができないか。このような世代間の交流を通して子どもの健やかな心と体を育むことができるのではないかと考えています。余談ですが、本日の新聞で、イギリスの辞書に「引きこもり」という言葉が載ったそうですので、「引きこもり」が日本のイメージとして外国に浸透したというのは悲しいと思っています。以上です。

〔司会〕

ありがとうございます。Aさんの御意見は、子どもたちの豊かな心を育むためには、学校・家庭・地域が連携していかなければならない。また、親、子、祖父母の役割も、町内会や地域住民も巻き込み「疑似三世代」のようなしくみが構築できればという内容でした。次に、Bさんにご意見を発表していただきます。

〔Bさん 中学校・PTA会長〕

「小学校から高校まで～学校教育の縦の連携について」というテーマについて意見を発表させていただきます。

三戸町では文部科学省からの教育課程特例校の指定を受け、小中一貫教育に取り組んでいます。小中一貫校は平成25年4月に開校する予定ですが、保護者として小中一貫校に期待していることを述べます。

一つは、先生方に子どもや家庭を十分に理解した上で指導してもらえることです。小中9年間の渡ってのお付き合いになりますので、どんな家庭環境なのか、どんな子どもなのかを先生方に知っていただく時間が増えると思います。また、9年間の成長を継続して見ていただけることも大きなメリットになると思います。そのような関係が構築されていくと、先生と保護者が子供のことについて相談しやすくなったり、子どもが困ったことを先生に相談しやすくなったりするのではないかと思います。

二つ目は、小中継続した部活動ができ、指導を受けられることです。小学校にある部活動が中学校に無かったり、中学校で力を入れているのに小学校にその土台が無かったりと、うまく接続できていない例が県内のあちこちで聞かれます。

学校の事情や職員構成など理由は様々あると思いますが、うまくいかないという事実は結局は子どもたちに跳ね返り、子どもたちの意欲や希望を失わせることにつながります。小中一環教育ではそのようなことが無いように環境を整備したり、指導の方向性を揃えたりということが期待できます。子どもたちにとって部活動は夢や希望を持って頑張ることができる場であって欲しいと思います。

三つ目は、小中の先生方が協力することにより、学力の向上が期待できることです。中学校の先生方がその専門性を活かして、理科の実験・観察、英語、保健体育、音楽、美術、技術家庭などの授業を小学生に対して、年に1回か2回でも行ってくれば、子どもたちの勇気づけになるのではないかと考えます。また、小学校の先生方が小学校でつまずきを抱えたまま中学生になった子どもたちに復習的な内容を指導してくれば、子どもにあったやり方で教えてくれるのではないかと考えます。学習内容がわかるようになること、勉強が楽しいと思える機会が得られることはきっと学力の向上に結び付くと期待しています。小中一貫教育に期待していることは他にもありますが、今述べた3点が実現されるように、保護者も一丸となって学校に協力することが大切だと思います。一貫校になれば、現在の日程もひとつになります。組織の整備を進めるとともに、ますます協力支援体制を強くしていきたいと思います。以上で意見発表を終わります。

〔司会〕

ありがとうございました。Bさんのご意見は、個々の家庭を理解したうえでの9年間を通した学習、あるいは生徒指導、部活動が小中継続した形で子どもたちの可能性を引き出していく、さらには先生方の専門性を活かした指導によって、学力的に非常にうまくいくのではないかとという内容でありました。

次にCさんからの意見発表をお願いします。

〔Cさん 三戸町教育委員会推薦〕

一般を代表しまして、小学校から高校まで～学校教育の縦の連携について意見を述べさせていただきます。どこの町村にも小学校・中学校は当然存在しておりましたが、最近の少子化の影響で学校の統合が多くなり、三戸町でも平成16年からこの5年間で3つの小学校が閉校となりました。確かに児童がいなければ学校経営は成り立ちませんが、地域に小学校が無くなることは地域の人たちにとって大変悲しいことだと思っております。閉校となった地域の児童は、残っている学校へ通学しなければなりません。三戸町では現在、三戸小学校、斗川小学校、杉沢小学校の3校と、三戸中学校、杉沢中学校の2校があります。そのうち杉沢小学校と中学校は、町の中心部から20km位離れていますので、児童生徒が少なくなっても、三戸小・中学校への統合は難しいのかなと感じています。現在の杉沢小・中学校において、現行の学習指導要領の中で、小中一貫校の視点で小学校と中学校の先生が交流授業や行事を行ない、小中一環境教育のメリットが最大限に発揮され、地域の保護者の方々からも高く評価されています。

これから三戸町では三戸小学校に三戸中学校を併設し、将来的に斗川小学校も

統合し小中一体型の校舎で行う小中一貫教育を目指している状況です。小中一貫教育を実施するに当たっては、校舎の一体化の他にソフト面の取組みがあります。

現行の学習指導要領の道徳、特別活動、総合的な学習の時間を統合した「立志科」という形で表し、将来に向けて逞しく主体的に生きていく能力の育成や、これまでの中学校から始めていた英語の学習を小学校1年生から実施し、これからの国際社会に役立てるような人材を育成するものです。小中学校の統合は勉強もそうですが、ソフト面において校旗・校歌をどうしようか、PTAをどうしようかなど、PTA関係者も心配しているような面も多々ありますが、校舎一体化の整備に合わせながら並行して考えていかなければならない問題だと思っております。

三戸中学校や杉沢中学校の生徒の約半数以上は地元の三戸高校へ入学している現状ですが、先日三戸中学校の校長先生と会うことがありお話を聞いたところ、三戸中学校では三戸高校といろいろな交流を盛んに行っており、中学校側でも、高校側でもなるべく地元の高校に地元の子どもたちを入れたいという思いが伝わってきました。

また、三戸高校では先日商業部の生徒が全国大会で準優勝したと新聞紙上に載っていましたが、大変すばらしい活躍です。受賞祝賀会にも参加しましたが、子どもたちのきらきりと輝き、そして自分にはこういう技術が、勉強すればこれだけのことができるという自信にあふれる姿を見て、大変嬉しく感じました。

小学校から高校までの12年間のつながりは切っても切れません。当然、地元の三戸中学校の生徒がみな三戸高校に行くということではありませんが、基礎となる小学校、そして中学校での高校入試に対する心構えが大変重要なことと思います。

最近、子どもたちがなかなか外へ出て遊ぶということが少なく、どちらかというと家の中に引きこもって、勉強をしないわけではないが、夜型になっています。

夜遅くまで勉強をしていることもあるわけですが朝なかなか起きれない。自分のスケジュールの時間配分がうまくできていないと感じています。自分の子どもの様子を見ていてもそのような感じがします。以上で私の意見発表を終わります。

〔司会〕

ありがとうございました。Cさんの発表では、学校の統廃合が進む中での三戸小・中学校、それから杉沢小・中学校の取り組みを高く評価されている。それから地元の三戸高校への入学と活躍への期待、地元の中学校と三戸高校が密なる連携を図っていかなければいけないという内容でした。私も先ほどここへ来るときに、三戸高校の電卓競技で準優勝したという、子どもたちの活躍を祝賀する看板を見て、町のそういう姿勢などを感じました。

それではここから、三人の意見発表を踏まえ全体で意見交換を行いたいと思います。テーマは分かれています、皆さんから一括して御意見を承りたいと思います。ご発言のある方は挙手をしていただき、こちらからマイクをお持ちしますので、マイクを使って発言をお願いします。なお、発言は着席したまま簡潔にお願いしたいと思います。

それではHさんお願いします。

〔Hさん 小学校・教員〕

世代間の交流というお話がありましたが、子どもたちの人格を形成するのに大切だなどと思うことがあります。本校には立志科という教科の時間で、三戸町にある「きんかもち」について、1年生の子がおばあさんと一緒に作ってそして由来をわかっていくとか、田植えなどに各世代の方を地域からお呼びして学んでいくなどしています。今、統廃合の話がCさんから出ましたが、蛇沼小学校で大黒舞というのがあり、これを継承していきたいなということで、夏休みに5年生の教諭が地域のお年寄りの方々からお話をうかがって、立志科の中で調べていくということで進めています。地域のおじいさんおばあさんが、春先の学校での早朝の作業にたくさん参加してくれるなど、前と違ってきたなという感じがしています。運動会には1,000人位の保護者の方が参加してくれましたが、もしかすると半分近くがおじいさん、おばあさんなのかなと思って見ていました。学校としては魅力のあるプログラム、それから保護者の方やおじいさんおばあさんが参加できるような行事をやりたいと思っています。先ほど、Aさんがお話したような、世代間交流の中で子どもたちを育てていきたいなと考えています。近々では9月10日から三戸秋祭りがあります。山車の運行などに子どもたちが参加する中で地域のお年寄りの方々と一緒になって、交流できれば良いなと感じています。

〔司会〕

ありがとうございました。お年寄りの方に学校に足を運んでいただき、子どもと交流しながら、昔の食べ物を作って、その良さを発見をしていく。また、情報発信をしながら、お年寄りや保護者とともに行事を運営するなどして学校教育を行っていくということでした。この件についてでなくとも結構ですので他に意見をお願いします。

Jさんお願いします。

〔Jさん 中学校・教員〕

豊かな心の育成ということで、本校は小中一体型の校舎で小学生15人中学生15人と少ない中で学校教育を行っております。私は今年赴任して来たのですが本校の運動会は、地域の運動会ということでの運動会になります。

人数は少ないのですが紅白に分かれて行います。私がびっくりしたのは、そのほかに地域対抗ということがありまして、各地区のお父さんお母さん、おじいさんおばあさん、保護者が参加して競う。そして最後に反省会で表彰するという地域をあげての運動会が行われており、学校の運動会なのか地域の運動会なのか分からないくらい地域の方が参加しています。そこでの触れ合いがすごいと感じています。1月には、地区の全戸の方々に案内を出しておじいさんおばあさんに来てもらい、触れ合い祭りというのを開催しています。そういうところから世代

の交流で、自分の親だけでなく自分の子どもだけでなくいろんな方と交流ができるというところが本校のすごいところかなと思っています。夏休みに入ってすぐ三戸町の行事でボランティアスクールというのがあったのですが、今年は小学校6年生と中学校1・2年生全員が参加し、福祉施設を2日間訪問し体験しました。本校は人数が少ないので人と交わることが少ないのですが、いろんなところでかけ人と交わることができる三戸町の活動は本当にありがたいなと思っています。

ただ、健やかな体の方は、本校は歩いてくる子が5人、あとの子は送り迎えが無いと通学が無理な地域なので、肥満と言いますか体格のいい子が小学生でも多い状況です。その辺は、部活動を行うことで、学年が上がるにつれスリムになってきているのかなと感じています。豊かな心は育ってきていますが、歯や目のことなども含め、体のことについては、まだまだ小中一貫で頑張っってやっていきたいなと思っています。

〔司会〕

ありがとうございました。小中一貫校での運動会が子どもを飛び越え、地域の運動会となっている。今、各地区で行事を行ってもなかなか子どもが集まってこない現状の中でとてもうらやましいお話しです。この、豊かな心と健やかな体の育成の中で、学校から情報を提供し、学校へ地域の方に足を運んでもらって子どもたちと知り合い、それが町で見かけて子どもに声がけなどをする。そういったことから地域との交流が生まれてくるのではないかなと感じました。学校、地域、町内会、子供会などが一緒に子どもたちに働きかけていくということが大事であると感じています。もうひとつのテーマである小学校から高校までの縦の連携について二人から御意見が出されていますがこれについてはいかがでしょうか。

Kさんお願いします。

〔Kさん 高等学校・教員〕

小学校から高校までの縦の連携について、先ほどもお話しがありました、県の施策である校種間連携事業に三戸高校そして杉沢小中学校が取り上げていただき積極的に交流を図っているところです。昨年から引き続き部活動の交流、教員の交流ということで、普段我々は、高校の教員ですので小中学校の授業の様子は恥ずかしながら分からない。自分が経験してはいますが実態というか現在の状況が分からないという中で、そのような機会を作っていただき杉沢小中学校さん、そして三戸中学校さんの方にも行かせていただいて、かなり勉強になっています。

高校というと、各地域から中学生が集まってきて、どちらかというとよそよそしい雰囲気、三戸高校の場合、約半数が地元の三戸中学校と杉沢中学校の生徒さんであり、地元と密接な関係があると考えています。三戸秋祭りにも10年以上参加させていただいていますし、本校で運動会を開催しているときにも、地域のお年寄りの方がおいでになったり、そういう行事だけでも、他の高校に比べて交流が多いなと感じています。町の方からは三戸高校は町立の高校と同じであるというくらいの感覚です。先ほどの統廃合の話ですが、三戸地域独特の風習、

教育のしかたがありますので、県の方でも学校の統廃合においては各地域の特色を生かして残すような施策を計画していただけたらと思います。

〔司会〕

ありがとうございました。地域の特色を生かした学校づくりを進めていくという、三戸高校さんは行事を通して地域との交流を盛んに行ない、地元の高校という意識で先生方も教育活動を行っているということでした。

I さんお願いします。

〔I さん 中学校・教員〕

うちのPTA会長であるBさんから小中一貫教育に関連して三つのお話がありましたが、私も小中一貫教育を進めていくことにいろいろなメリットがあることを感じております。子供会、部活動、学習などでの効果が大きいのではないかと感じています。三戸高校さんから声をかけていただき、今年度中学校の授業を参観にきていただき、いろいろな面で助けてもらい、小中高のつながりは非常に大事だなと感じています。

最近になって、個人的に感じるのですが、学・心・体の中で、一番ベースになるのは心の部分ではないかと思っています。学ぶことによって心が鍛えられる、身体を鍛えることによって心も鍛えられるということはあると思いますが、一番のベースは心の部分なのかなと感じています。4月から赴任し授業をしているのですが、話を聞くこと、ノートをきちんととることなど、要するに我慢をすること、苦手な困難なことに立ち向かうことが足りないのではないかと思います。そんなことがうちの学校だけでなく他の学校もそうだと思うのですが、英語・数学の点が伸びない。向かっていくという気持ちが足りないために、諦めてそこで立ち止まってしまう子供が多いのかなと思います。うちの3年生は夏休みの午前中に学習会というのをやって、その他にある教師が夕方に英語の学習会をやっていました。

それが参加者がはじめは十数名だったのが三十数名になり、向かうという気持ちが出てくるとそういうことについてくるということを感じました。やはりベースになる心の部分がなのかなと。そういうことを考えると、来週三戸小で幼・小・中の連携事業があり、小・中・高の前段階のことで、一貫した取組みになっています。小さい頃に心を育てるのがその後に大きくつながっていくのではないかと感じています。

〔司会〕

ありがとうございました。校種間連携の取組を行うにあたって、特に心の面の教育が重要であり、先ほどAさんの意見にありました規範意識、幼い頃のしつけから、幼小中高とつなげていかなければならないということでした。他にありませんか。Lさんお願いします。

〔L さん 高等学校・教員〕

小中高並びに地域の異世代との交流ということは、三戸地区だけではなくて、当然どこの地区でも考えていかなければならないということで、ちなみに本校では、地域との交流ということにもつながっているのですが、地域の歴史を調べまして、蕪島というところは観光客がたくさん来るところですが、蕪島での高校生のボランティアガイドを3年間継続しています。三社大祭では土日だけで約300名活動しています。生徒たちが様々な情報を発信しているのですが、そのベースになっているのは、鮫観光協会の方々が平均年齢70歳以上ですが、そういう方々の支えがあってできている。そういうおじいさん方との交流で、その方が使っていた資料や道具の使い方を教えてもらうなど、高校生もいろんなことをしています。さらにそれを、蕪島を訪れた県外からの観光客の方々に伝えている。それは、先ほどのお話でもありました、先に向かっていく姿勢に結びついている。それが学校での生活態度や地域との結びつきへつながっているのかなと考えています。課題をあげるとすれば、これは高校生が地域と結びついてやっているのですが、それを小中まで広げてやっていきたいということです。それができれば、子どもたちが小さい時から自分の地域に愛着を持ち自信を持って育っていける。そして、学校での生活の落ち着きや、自分の将来に向けての学びにつながっていくのではないかと思います。先ほどIさんがおっしゃいましたけれども、我慢する姿勢、向かっていく姿勢を作っていくことが大事であり、そのために外とのつながりを作っていく、それを学校が支援していく、あるいは地域が支えていくということが必要だと思っています。

〔司会〕

ありがとうございました。地域の特色を出しながら子どもたちがボランティア活動を行ったり、鮫地区の観光協会のおじいさんとの交流を通して、外に向かっていく姿勢を培い、将来的にはこれを小中につながっていくことを考えているということでした。

では、ここでいったん休憩を入れたいと思います。まだ他のテーマについてもご意見がおありの方がいると思いますので、後半はそういった意見も含めて意見交換をしていきたいと思います。

〔司会〕

休憩前に引き続き、後半に入りたいと思います。後半はDさん、Eさんの順に意見発表をいただき、それを踏まえて意見交換を行います。それでは、丹さんから意見発表をお願いいたします。

〔Dさん 高等学校・学校評議員〕

レジュメには、小中一貫校等、三戸町で進めている、私に関わったことを書きましたが、これまで皆さんがお話になったことにつきますので、繰り返しになってもしょうがないので、そちらの話には深入りせずに、別の話をしたいと思います。それにしても、小中高一貫、あるいは大学まで一貫的な見通しを立てて子ど

もを養育していく、これが教育の原点だと思いますので、少し方向転換して私の教員としての経験の中から体験談等をお話したいと思います。

ご紹介にありましたように、私は現在学校評議会の仕事を手伝いさせていただいてます。元々高校の教員として勤め退職いたしました。その後、東京の青森県学生寮という大学生や専門学校生が約100名いる寮の寮長として、学生と寝食をともにしました。その後に縁あって平成13年から三戸町の教育長を8年未満やらせていただきました。私は、農業が専門ですので、高校教員としては農業高校が長く、そのほか工業高校や普通高校でも教員生活を行いました。その他、仕事上では水産高校や特別支援学校に関することなど多岐にわたり仕事のチャンスを与えていただきました。

全部がそうということではないのですが、私がおりました頃の農業高校に入学してくる生徒は、学力が低い状況でした。義務教育で9年間勉強してくる子どもたちが、高校進学率が90%以上あるにしても、どうしてこんなにも学力が低いのか、これが痛切な感想でございました。従いまして、その頃私がいた農業高校では、言うなればわれわれは小学校の教員でもあり、中学校の教員でもありました。小学校の4年生くらいの学力から指導し、中学校の数学や国語も、免許はないのですが普通科の先生方をお願いしてみんなで教えました。1年間位かかるのですが、これを理解すると子どもたちが目を輝かせてどんどん挑戦していきます。

要するに、それなりの指導法によって彼らに身につけさせることができた学力がどこかでスポイルされ、希望とは違う農業高校に入らざるを得なくなりました。これは20年も前の話しです。ですから、現在の状況とはまた違うと思います。それから、工業高校の生徒は農業高校より学力の高い子が入ってくるのですが、残念なことに不得意科目を持っている子が入ってくるんです。丁度工業高校に勤めた時に、工業高校は数学が得意だと自己実現するにとっても塩梅がいい高校なのだけど、数学が苦手な子が入ってきました。そこで、数学の中学校レベルの数学を再度しっかり教育できることに長けている先生の配置を教育委員会をお願いして、そのようなことを改善した思い出があります。やはり、その子どもたちも、一回理解しますと、どんどん学力が向上し、やる気が出てくるといふ、そういう体験もしました。普通高校は進学校でしたが、ほとんど100パーセント大学進学ですので、本当に勉強の好きな子が入学してきます。みんな自信に満ちて晴れ晴れとした顔で入ってきますので、お互いに人間関係がいい。人間関係がいい中でお互いに切磋琢磨していく中で伸びようという意欲があるわけです。ただやはり、それなりの大学を目指していくということになりますと、学校の授業もそれに合わせて展開します。高校への入学時には、中学校卒業時の学力がどの程度なのかいろいろ調査をします。特に郡部から入学してくる子は優秀です。しかし、数学の計算がとろい、つまり四則計算がとろい。高校の数学では基礎的な計算ぐらいは暗算でできないとその先の高度なものに展開していけないわけですが、時間が足りずに問題ができないまま途中で終わってしまいます。すると、入学試験ではかなり点数が良かったのにどうしたのかということになります。そのことを本人に話すと、中学の秀才が凡才になってしまう。レベルがダウンし

てしまいます。そのようなことが多々ありました。そのような子どもが30人くらいいると。本来であればその30人は青森県を引っ張っていくような人になるはずなのにだめになってしまう。これではまずいと感じました。

従いまして、そのようなことは中高連携を図ったうえでどのような方策を行うべきかと考えました。特に農業高校での体験で、1年間基礎を教育すると子どもが変化し、入学試験では点数の低かった子が国立大学に入り優秀な成績で卒業したというそんな子どももいます。そんな風に生徒が化ける。変化が出るんです。

です。子どもを化けさせる何かが少しかけているのではないかと思います。

それから大学の学生寮で100人ぐらいの学生を指導するのですが、自分を見失わずに勉強する子は20人くらいです。あとの8割は、早稲田や慶応といった学校にも入っているんですが、自分を見失っていく子が非常に多いんです。合格した、これからは我が世の春だ、レジャーだとなってしまう子が多い。日本の教育はこれで日本を支えていけるのかなというのが率直な感想でした。私たちは子どもたちを育てていく場合に、この子は何に向かって自分の生きがいを見つけていくのかなという目標を小学校1年生の時から育てていく必要があると強く感じました。そのためには学力をつけることが必要です。確かに勉強というものは学力だけではないですが、学力が低い子は自己否定をし退校現象を起こします。そうならないように、小学校の5・6年生あたりからそういった子どもに対して手立てをする。その手立ては学級担任が主担当で行っていますが、学級担任だけではなく、中学校で要求するようなことは中学校の先生に手助けをしてもらう。そういうようなことがなかなか無いわけです。例えば、小学校の先生が、教えた6年生の卒業と同時に中学校へ異動する。あるいはその中学校の先生が小学校に異動し、中学校で培ったことを小学生に教育する。これができれば教育はまだまだ伸びると私は思います。連携型の教育ではこういった取組もある程度可能ではないかと思っています。ただ、校種の違う免許の取得等の問題があるので、緊急避難的になっているものに対し、仮免なりなんなり対応するような柔軟性も必要ではないかと思っています。

こういった思いから、私が三戸町で教育長をやった時に、小中のことだけでも何とかならないかと考えました。現在の制度はありますけれども、小学校と中学校の9年間を区切らず継続し、6年・3年ということでもなくもう少し柔軟に区切り方をしてはどうかと考えました。今の子どもは早熟でかつては12歳頃と言われたものが、10歳位で心的にも劇的に変化します。そういった指導の適時性を失った結果、子どもが悩みを抱えたまま中学校へ行くことになり、中学校では全く違った文化に教育されますので、不登校が出てくることになります。文科省等の調査では、全国12万2千人で数は2/3に減っているなどと発表していますが、不登校の根源はどこかというところ、小学校の5年生から出てきて、文化がすっかり変わった中学校では3倍に膨れあがります。ですから、そこにどのような人的な配置をするかについて行政側で考えていけば、先生方は一生懸命やっていますので、成果があがり、改善するのでないかと思っています。それが小中一貫教育の基本であったということをお話させていただきました。

〔司会〕

ありがとうございました。38年間の教員生活を通じて小中一貫教育の背景をお話していただきました。小学校での教育の大切であること、そして中学校・高校と連携し、学力を身につけさせることによって何事にも夢を持って進んでいけるのではないかというお話でした。続きましてEさんの方から意見発表をお願いします。

〔Eさん 特別支援学校・PTA会員〕

私は特別支援学校に通う子どもの保護者として、本日のテーマにあります「豊かな心と健やかな体の育成」ということで、子どもたちが自分で夢を持ちそれを実現できる環境作りについてお話ししたいと思います。娘が通っている学校は肢体不自由児を対象とした教育を行っている小学校から高等部までの特別支援教育の学校で、児童生徒数は165名です。娘は現在小学部5年生で、小学部で勉強する他に週に1回、隣接する「はまなす医療療育センター」において理学療法士の身体機能の訓練を受けています。私は娘が小さい頃から健常の子どもたちと同じように自分のことは自分でできるように、また同じような体験や活動をさせたいという思いで育てています。3年前から青森市の雲谷スキー場で1年に1回行われているスノーフェスティバルでの「チェアスキー」に子どもを参加させています。

はじめは娘がチェアスキーに興味を持って参加したのですが、経験者の子どもさんのように滑れなかったり、思い描いたように滑れなかったり、転んでばかりいて、何度もくじけそうになりましたが、その時にパラリンピックの四戸さんが指導してくださったり、また、子どもの補助に付いてくださったボランティアの方々の励ましによって徐々に上達し、今ではスキーの楽しさを知り積極的に取り組んでいます。来年は一人で滑れるようになりたい、転ばないようにうまく滑れるようになりたいと言っており、親としては娘が心身共に成長してきていることを感じています。昨年度、娘の国語の先生がバンクーバーパラリンピックで視覚障害者のガイドスキーヤーとして参加し、入賞するということがありました。それに加えて、校内行事で長野パラリンピック銀メダリストの野沢さんを招いての「シットスキー」講習会並びにスラローム講習会でアドバイスをいただき、スキーに対する取り組みが一層意欲的になってきています。今は早く冬にならないかなとか、自分も教えてくださったオリンピック選手のように、テレビに出られるような方のようにうまくなりたいと言っています。私は、娘を通して子どもたちが自信に満ち溢れて目的に取り組もうとする教育をしてほしいと思っています。特にスポーツは豊かな心や健やかな体作りをする絶好の機会であると考えています。

先ほど事務局が少し紹介したドリカム人づくり事業の支援を受けて生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を培うこと、体験的な活動を通して自分を表現する力を育てることを目標として、パラリンピック競技の体験や障がい者スポーツ大会などを行うと聞いています。これからは、子どもたちが生涯にわたってスポーツに親しんでいける環境作りに学校が取り組んでくれることに期待するとともに、県教育委員会の一層の支援を期待したいと思っています。

大人の障がい者のスポーツについては認知度が高く普及している状況だとは思いますが、障がいのある子どもたちが幼い頃から夢や希望を持って一生涯取り組める障がい者スポーツの普及促進に尽力していただくことを期待します。

本校には、なかなか自ら進んで運動できない子どもたちや、運動する機会が少ない子どもたちが多く、体の面では肥満という問題があります。健常児がそうであるように、障がいがある子どもたちにとっても、スポーツや、心を豊かにしたり、特に自分で動けない子どもさんに関しては、自分を表現する手段としての音楽。また、音楽に関しては感覚を刺激すると言われていいますので、自分がやってみたいものに挑戦するということが大切だと考えています。

今後は、障がい者の支援があって、障がいのある子どもたちがスポーツや音楽など夢を持ち、やりたいことに挑戦できる環境の整備、並びに、学校卒業後も継続して取り組める一貫した仕組みを作っていただきたいと強く願っています。

最後をお願いになりますが、県の教育委員会には、児童生徒に合わせた環境について配慮して動いていただいています。学校には私の娘のように動けない子どもさんがたくさんいらっしゃいます。この子どもたちは、自分で動けないだけではなく自分の意思を伝えることができない、また体温調整もうまくできない子どもさんも今現在大勢いる状況です。今年のように暑い夏は体調面でそういう子どもさんがとても苦しい思いをしている状況ですので、子どもさんたちが安全に、快適にすごせるような環境整備や改善をお願いして発言を終わります。

〔司会〕

ありがとうございました。子どもさんが「チェアスキー」を通して前向きにすごしているが、これからも障害のある子どもたちが、障害にわたってスポーツや音楽に挑戦できるようなくみ作り、また、様々な障がいを持って動けない子どもたちがおりますので、学校環境の整備にも力を入れていただきたいということでした。ここで、県教育委員会からドリカム人づくり推進事業ということでご紹介がありましたが、実際に養護学校さんがどのように取り組んでいるかのご紹介をお願いします。

〔Mさん 特別支援学校・教員〕

今日は甲子園の決勝が行われ、少し前にはサッカーのワールドカップの開催。

また、本県に縁のあるプロ野球選手などのスポーツ選手や地元の選手も頑張っており、子どもたちもそういうものを見る機会が多いです。

ただ、やはり、体に制限がある、自分で自由に動けない子どもたちと接していて、自分は動けない、自分はできないからというあきらめの気持ちが感じられました。そうではなく、体育というのは体だけでなく心も育てるんだよと、また「障がいがあるからできない」と、はじめからあきらめるのではなく、障がいがあるからこそできるスポーツもあるんだよというのを教えたいと思いました。

皆さんも障がい者スポーツと言われてもピンとこないと思いますが、障がい者スポーツというのは結構ありまして、これから8月29日に県の障害者スポーツ

大会というのが開かれます。また、10月開催の千葉国体の後に同じく千葉で全国障害者スポーツ大会が開かれます。そして4年に1回のオリンピックの後にパラリンピックが開かれるように、様々に障害者スポーツが注目されています。本校でも、子どもたちに障がい者スポーツをさせたいということで、昨年度からスラロームという陸上競技ですが、車いすの方のための競技を取り入れたりしていました。今回、このドリカム事業の中で、パラリンピックの公式競技である「ボッチャ」という競技と「フライングディスク」という競技に挑戦させたいと、それから八戸の伝統であるスケートを取り入れた車いすの方たちが取り組んでいる「アイススレッジホッケー」、パラリンピックでは日本チームが銀メダルを取ったんですが、県内にそのスレッジホッケーのチーム、八戸バイキングズというチームが一つあります。そのチームの力を借り、新井田リンクを貸し切りにして、子どもたちにそのホッケーをやらせてみたいということと、最後はみんなが頑張ってきたことをお母さんたちを交えて発表させたいという気持ちがあります。

みんなで力を合わせようという競技で、最後まであきらめない気持ちと、「目指せトップアスリート」という気持ちで頑張っていきたいなと考えています。私たちの中でも、国体やパラリンピックで活躍できる選手が出ればいいなという願いを込めて取り組んでいきたいと思っています。

〔司会〕

ありがとうございました。子どもたちに様々な体験をさせて、「あきらめない」ということを教えるということと、障がい者スポーツを通じて子どもたちを育てていきたいということでした。

それでは、後半の意見発表に対して、前半と同じように意見交換をしていききたいと思います。発言がある方は挙手をお願いします。

Jさんをお願いします。

〔Jさん 中学校・教員〕

学校教育の縦の連携ということでお話しします。本校は小・中併設校ですので、小学生と中学生が日々、毎日顔を合わせています。それから小学校の先生と中学校の先生がこれも同じ職員室で毎日顔を合わせています。そこが大事なのかなと私は思っています。昨年度から、「学習習慣形成のための校種間連携教育推進事業」で三戸高校と本校との連携事業が今年で2年目になります。昨年、今年と三戸高校の吹奏楽部の生徒に来ていただき交流を深めたのですが、今年2年目ということで、本校から三戸高校に入った生徒が、今年始めて吹奏楽部に入ったと顧問の先生から伺って、これも一つの成果かなと思っています。

今年はさらに三戸高校への体験入学ということで、一年生も二年生も含めて全校生徒15人、こういう授業もやっているということで、一緒に体験入学をさせていただきました。その中で、一年生が商業科の体験をしたのですが、先ほどのお話にあった、皆さんが感動している、すごい「電卓」の様子を見せていただき、それを見るだけでも良かったなと思いました。高校の先生方の顔を見ることも大

事なことだと思っています。ですので、今年に限らず来年、再来年も体験入学をさせていただいて、高校の先生の顔を見ると同時に、生徒の顔も見えていただくのが、「連携」、「一貫」を行う上で大事なことだと思います。

一つお願いしたいのは、一昨年度までは本校には複式が無かったのですが、中学校の先生が小学校に協力して教科を教えたりしていました。しかし昨年度からは中学校の2・3年生で複式になりまして、中学校では2・3年生を同じ教室で教えるのは無理があるので、別々の時間に個別に教えているため、一昨年度まで行ってきた小学校への協力・連携ということを行う余裕が無くなってしまいました。せっかく校舎が併置であり、せっかく小中が連携できる状況にありながら、教員数と時間数の関係で小学校まで手が回らなくなってしまったのが現状です。

中学校での複式というのは、やはり無理があるので、教員数の増員をしていただければ、以前のように小学校に行き行って教える余裕もできるのかなと思っています。

〔司会〕

ありがとうございました。小中連携の中で、子どもたちが触れることのできる体験活動の重要性や小学校との連携のお話し、最後にはお願いとして教員の定数の問題にも触れていましたが、国の法律の問題もありますので、今後の課題になるのかなと思います。

〔Hさん 小学校・教員〕

先ほど、小学校段階の教育がキーポイントになるというお話しがありましたが、三戸町では、小中一貫を4年・3年・2年という区切りで やっていくということで、夏休みに学力検査の状況を過去に遡って見ていくと、小学校3・4年生の時に学習習慣がきちんと身につくお子さんは高い数値になっているお子さんは、その後も5・6年あるいは中学校へもスムーズに移行している。小学校の4年生が非常に大事なのかなと感じています。

今、夏休みに教育課程の会議なんかを開いている中で、T・Tでやっているスタッフなんかを、3・4年生に集中して配置してやっていこうと。小中一貫で多めに取っている時間を集中的に使って下支えしていきたいと考えています。

これを小学校の中での連携の一つと捉えて、やるべきことは次の段階への引き渡しであると考えており、このことをもう一度意識してやりたいと考えています。

〔司会〕

ありがとうございました。小学校では3・4年生の段階が、一つ力を入れる段階であり、そこを意識して頑張っていくというご意見でした。

Aさんお願いします。

〔Aさん 小学校・PTA会長〕

養護学校さんの、「豊かな心と健やかな体の育成」のテーマについてなんですけれども、私の小学校5年の子どもが三戸の保育園の時に、障がいがある子と一緒に生活させていただいていました。その時に経験していることは子ども同士でしかわからないのですが、未だに、「タツヤ君どうしているのかな」と話すことがあります。卒園して5年立ちますが、子どもたちの心の中には未だに「タツヤ君」のことが残っていましたし、いろんな異世代との交流のお話もありましたが、「障がいのある子との交流の場」というのも、小学校では力を入れる必要があるのではないかと思います。大人になってから考えればわかることもたくさんありますが、実際に生活して見たり、遊んでいる時には、障がいのある子に対して「助けてあげなければいけない」と周りの子どもたちが思うかもしれませんし、逆に健常の子が障がいのある子を見て、知らない子であれば「何でできないの？」と思ってしまうこともあると思います。例えば弱視の子であればぶつかったり転んだりしてしまう。それを見て、なんで転ぶのと考える。そういう、同じ空間で生活させる場面ということが貴重な経験になると思います。

子どもは小さいうちは隔たりとか偏見、そういう意識はありませんので、小さいうちから交流を持ってもらえればなと思います。障がいがあっても、ピアノ演奏の方とかいらっしゃいますけども、すばらしい能力を持っている方も、また、そのように育つ子もいるでしょう。保育園もあります、小学校段階で交流させて、お互いを見せる。そういう中で保護者も同席して支え合えるような気持ちになれば、もっと子どもたちも安心して思いっきり行動できるのではないかなと。そして、高校生にもつながりますが、介護とかヘルパーになったとしても、子どもの時の想いがあれば、また、お家の方や障がいのある方をサポートする場面になっても、違和感無く接することができると思います。皆さんいろんなことをおっしゃっていますが、基本は小学校なので、小学生の段階でいろいろな経験をさせてもらえる仕組みができれば良いなと思います。以上です。

〔司会〕

ありがとうございました。障がいのある子どもたちとの交流の場が必要であるということで、八戸では、八戸第一養護学校と町畑小などが子どもさん同士の交流体験を毎年実施している。一年に一回だけですけれども、子ども同士のふれあいを通して、あるいは様々なゲームを行い交流をしていると聞いています。そういった中で、子どもたちの中に、「また来年行って、あの子たちに会いたいな」という気持ちが芽生え、そういった中で思いやりのある子どもに育つことが大事なのかなと感じています。

また、せっかくこの場においてになってまだ発言されていない方もいらっしゃいますので。せっかくの機会ですので、今まででできたお話しへの感想等でも結構ですので、Fさんいかがでしょうか。

〔Fさん 小学校・PTA副会長〕

うちの学校は小さい学校なので、地域との結びつきが非常に強い学校だと思っ

ています。特に私がこの頃気になっているのは、子どもが小学校のうちは、P T Aも子どもも伸び伸びとやっているんですが、中学校になり、大きい学校に行くと萎縮してしまっている子どもが多々見られるような気がします。私も中学校のP T Aの方と会ってお話しをすることもあるのですが、そういった点が解消されていけば良いなと思っています。本校は小中一貫には組み入れられないみたいなので、特にその辺が課題になるのかなと思っています。ですので、P T A関係で連携していければなと思っています

〔司会〕

ありがとうございました。学校と地域との結びつき、連携の中で子どもたちを見守っていければというお話しでした。

次に、Gさんいかがでしょうか。

〔Gさん 小・中学校・P T A会長〕

子どもたちの肥満化のことについてですが、昔は学校に行くのも歩いて通ったのですが、今の世の中の現状からいうと誘拐されたりなどがあって危ないということで、父親なり母親が子どもを送り迎えしている現状です。ですので安心できるような環境をつくってもらえれば、徒歩で通学できるようになり、子どもの肥満化傾向も無くなるのではないかと考えます。

〔司会〕

ありがとうございました。登下校の安全な環境づくりが大切であり、そのことによって子どもたちの健康な体づくりにもつながるのではないかというお話しでした。

予定の時間もだいぶ迫ってきました。発言をしたいという方がいればお一人だけお願いしたいと考えます。

それでは、いないようなのでここで意見交換を終了したいと思います。なお、本日のフォーラムの概要については、後日、青森県教育委員会のホームページに掲載させていただきますので、ご了承願います。

それでは、ここで三戸町の友田教育長に本日のまとめをお願いしたいと思います。友田教育長さんお願いします。

〔友田三戸町教育委員会教育長〕

本日は、第一回教育フォーラムを「教育の町」ここ三戸で開催していただきありがとうございました。鈴木教育委員、橋本教育長、山田所長、それから県教育委員会の事務局の皆様に出席していただく中で、今日の教育課題を検討協議する機会を設けていただきありがたいと思っています。

五人の方の意見発表を元に活発な意見交換が行われたわけですが、「豊かな心と健やかな体の育成」のテーマについては、お二方からご意見をいただきました。

豊かな心を育むためには学校、家庭、地域の連携が不可欠であり、子ども、親、

祖父母の家族構成が大きな役割を担っていた。昔はこの仕組みがうまくいったけれども、今は崩れかけてきている。三戸町では、町内会や子供会を巻き込んだ疑似三世代の仕組みづくりをすることで、子どもたちの豊かな心を育てていけないかというご提案でした。大変参考になるご意見でした。

今は、変化の激しい社会ですけれども、子どもたちの教育を学校だけで抱え込んでいくというのはきわめて難しいと思っています。地域には様々な力を持った人、あるいはおじいちゃんおばあちゃんが子どもの教育に何か力になれないかと言っていただく方がたくさんいらっしゃいますけれども、地域力を活用していけばもっともっと良くなるのではないかなと考えています。

特別支援教育については、スポーツや、音楽等のできる環境整備、あるいは学校を卒業した後も取り組める仕組みを作りたいというお話しでした。町としては財政が厳しいわけですが、できるだけ環境整備を進めるとともに、卒業後の事については、生涯学習という大きな枠組みの中で考え、県からも財政的な支援や教育方法など、いろいろアドバイスをお願いできれば良いなと思っています。

また、小学校から高校までの「学校の縦の連携」ということでは、お三方からご意見をいただきました。三戸町で全町的に取り組んでいる小中一貫教育に関するご意見がたくさん寄せられました。三戸町では、それと共に、意見にもありました幼小中連携事業を来月実施することになっております。また、昨年度から始まった県の「学習習慣形成のための校種間連携推進事業」において、町の小・中学校と県立三戸高等学校とで、12年間を見通した教育とはどうあるべきかについて研究しているところです。

三戸町が、県に先駆けて先行的に小中一貫教育を始めたのは、お三方の意見にもありましたが、小学校から中学校への移行段階で発生する「中一プロブレム」という問題や、また、昨年クロウズアップ現代でも取り上げられた「10才の壁」という問題や幼稚園・保育園から小学校に移行する際の「小一プロブレム」など、様々な課題があるわけですが、子どもたちが各段階へ移行する時にスムーズに適応するにはどうしたら良いのかということが大きな課題になっております。

この問題の背景にある最も大きな要因は、子どもたちが急速な社会の変化について行けない状態になっているのが現状ではないかと思っています。

三戸町では、心豊かでたくましい児童生徒を育てるために、昨年4月から小中一貫教育をスタートさせたことです。しかし、これはあくまでも連携の範囲での話しです。目指すところは、小中9年、子どもたちが一つの校舎で一緒に学ぶという一体型の小中一貫教育です。全国の発表事例を見ますと、一体型の校舎になったところでは、不登校の数が減少したり、学力が上昇したりなどありますので、大いに期待しております。しかし、この事業を1万2千の三戸町が行うわけですが、町単独ではどうしても限界がありますので、県教育委員会におかれましては指導・助言あるいは、教育の支援、補助をいただければ大変ありがたいなと思います。

本日は、本当に有意義な意見交換ができたと思っています。みなさんどうも

ありがとうございました。

〔司会〕

ありがとうございました。次に、県の教育委員会からも、まとめをお願いします。それでは、まず橋本教育長をお願いします。

〔橋本県教育委員会教育長〕

本日は、大変お忙しい中、また、暑い中このフォーラムに参加していただきました。大変貴重なご意見をたくさん伺いましてありがとうございました。

今日は、県教育委員会の職員も多数おりますので、それぞれの部署に戻り今後の教育行政を進めるうえで、たくさんのヒントをいただいたのではないかと、大変得をしたのではないかと、そのような気分になっているのではないかと考えております。

私共も県教育委員会といたしまして、今日いただいたたくさんのご意見を参考にして、これを施策に生かしていくよう努力して参りたいと考えております。

特に、今日の感想を一言で申し上げますと、まさに「教育は人なり」ということに尽きるのではないかと思います。教育委員会側としては、声高に「連携」などということをおっしゃっておりますが、それぞれのお立場の中、関わりのある人と人とのつながりの中で子どもたちを育む良い環境を作っていくと。いろいろな課題も多いところではございますが、私共も行政として努力して参りますので、保護者の皆様、あるいは学校の教員の方、いろいろなお立場の方からご意見をいただき、半歩でも前に進んで参りたいと考えております。

また、他の地区の方々にも、この三戸地区の教育の取組についてぜひ宣伝して参りたいと考えております。これを持ちまして私からの御礼の言葉とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

〔司会〕

ありがとうございました。最後に、福島教育委員からお願いします。

〔福島県教育委員会教育委員〕

橋本教育長のお話と重複するかもしれませんが、皆様からたくさんの貴重なご意見・発表をいただき大変ありがとうございました。今後の参考にさせていただきたいと考えております。

最近あまり耳にしなくなった言葉かもしれませんが、「三つ子の魂百まで。」という言葉がございます。私にも4才になる孫がおりますけども、では自分が4才であった時はどうであったろうとたまたま振り返る機会がございました。

やはり、先ほどPTAの会長さんがおっしゃったように小学校から中学校、また、高校に移行したときに、あるいは幼稚園、保育園から学校ということも考えますと、やはり家庭でのしつけが大事なのかなということを、今日の発表を伺って思いました。今日は大変参考になりました。ありがとうございました。

〔司会〕

ありがとうございました。時間の方も予定を延長して行いました。

本日のフォーラムでは様々な意見を交換できたことで大変有意義であったと思います。これでおもりの教育フォーラムを終了します。本日は大変ありがとうございました。